

## 人の成長から地域を“興す”

「地域おこし協力隊」は、地方自治体の地域力の維持・強化を図っていくため、2009年に総務省によって制度化されました。地方自治体が主体となって募集を行い、地域おこしや地域の暮らしなどに興味のある都市部の住民を受け入れて地域おこし協力隊員として委嘱します。

隊員には地域ブランド化や地場製品の開発・販売・プロモーション、都市住民の移住・交流の支援、農林水産業への従事、住民生活の維持のための支援などの「地域協力活動」に従事してもらいます。このように、地域を「興す」というと、観光や物産振興、シティプロモーション活動に目が向きがちですが、現在、町が委嘱する地域おこし協力隊の井下さんは、それらとは違った切り口で地域力の維持・向上にアプローチしています。

それは「人を育てる」ということです。

井下さんは学習支援やキャリア教育を通して、子どもたちに自分自身で人生を切り開く力、物事に対する意志を培ってもらい、将来的に地域力の向上になればという思いで活動しています。

1年を経過した井下さんの地域おこし協力隊としての活動を通して、震災を経て変わりつつある町の教育の現状と、取り組みをご紹介します。

## 震災直後から学習支援に

震災後、益城町では居住環境などが変化し、特に仮設住宅などに住む子どもたちの勉強の場所がなくなるなどの状況が起きました。

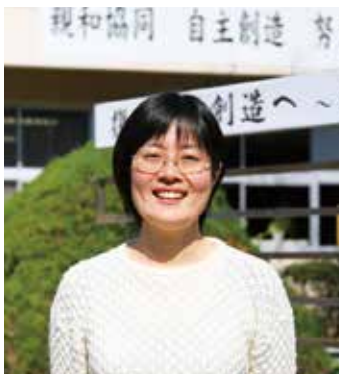
そのような状況を改善するために支援に入ったのが認定NPO法人カタリバ(東京都)でした。

カタリバは、支援内容を充実させるため、コラボ・スクール「ましき夢創塾」を立ち上げ、地元や全国の学生、地域の企業や教育機関と連携する形を作りました。ましき夢想塾では、各中学校で放課後学習会を、仮設住宅にある集会所で夜間学習会を開催しました。また、キャリア教育支援では、地域の人や企業に参加してもらい、職場体験の事前学習として模擬面接などの体験授業を行いました。

カタリバの職員として益城町の教育支援を行っていた井下さんは、こういった活動を通して、次第にキャリア教育に魅力を感じ、地域で育て、子どもたちに地域の魅力を理解してもらうことの重要性に気付きました。その後、キャリア教育にもっと深く携わろうと協力隊へと転職した井下さんは、「木山中チャレンジプロジェクト」を企画したり、コミュニティ・スクールの推進に先生や地域の人と一緒に取組んでいます。学習支援活動も、熊本大学とカタリバが中心となり今もなお継続されています。

# 地域を興す

## キャリア教育を通じた地域力の向上



### 井下 友梨花 いのしたゆりかさん

大分県佐伯市出身。大学卒業後、株式会社リクルートホールディングスで企画営業を4年間担当。その後、学生時代にボランティアとして参加していたという認定NPO法人カタリバに入職。入職後、すぐに平成28年熊本地震が発生し、同年5月22日から熊本の支援拠点立ち上げに尽力しま

した。益城町の印象について、「面白い町だと思います。先生たちも思いを持って活動している。4年近く過ごして見えてきたものもあるし、せっかくできた関係性を大事にしつつ、もう一步踏み込んで取り組みたいという思いから地域おこし協力隊を志望しました」と目を輝かせます。